

ノーバディズ・パーフェクト・プログラム 事前講習会

木本 明日香¹⁾

はじめに

ノーバディズ・パーフェクト・プログラム（以下、NPプログラムと略記）では、参加者の安心を確保するために、プログラムの内容と同等に託児が重要な意味を持つことになる。NPプログラムに学生が託児者として参加することでの成果は、①プログラムをとおり「誰も完璧な人などいない」という対人援助の基本姿勢を学ぶ②日頃に関わることの少ない乳幼児期の子どもたちとのふれあいを通して、発達過程を体感するとともに、乳幼児への興味・関心を高める③対人援助の実践活動についてのノウハウを学ぶということであった。学生が安心して託児を行っていくことができ、成果につなげていくために、金子留里先生と坂本牧子先生をお招きして、事前講習会を行った。

【NPプログラム事前講習会】

1. 実施概要

- (1) 2012年1月20日（水） 13:00～14:00
- (2) 場 所：心理教育相談センター演習室
- (3) 講 師：金子留里（敬称略）
- (4) 参加者（敬称略）
 - （学生スタッフ）小下いずみ・佐々木麻美・谷岡瞳・大利幸恵・重廣奈緒子・竹本里佳子・水津舞弥・内田果歩
 - （託児スタッフ）坂本牧子
 - （運営スタッフ）濱田さつき・新見直子・木本明日香
- (5) 内 容：①NPプログラムの概要説明
 - ②プログラムの流れ
 - ③模擬体験
 - ④NPプログラムにおける託児の意味

2. 実施内容

(1) NPプログラムの概要説明

NPプログラムは、1980年代にカナダではじまったプログラムであり、2002年より日本でも実施されはじ

めた。NPプログラムでは、①子どもの健康や安全、行動についてさらに深く学ぶ②親が既に持っている親としてのスキルをもとに学び合うとともに、新しいスキルを練習し、獲得する③親が自分自身の持っている長所や能力に気づき、親としての自信と自尊心を築く④他の親と知り合い、リラックスした楽しい雰囲気の中で学ぶ⑤他の親とのつながりを深め、お互いに助け合い、サポートしあえる関係になるという5つの目標をもって講座を行っている。

(2) プログラムの流れ

プログラムは、週1回のペースで合計8回行っていく。1回目は、『出会い』として、お互いを知ること大きな目的にしている。そのため、ルール作りや、2回目～7回目で行いたいテーマを一緒に考えていく。その後、2回目～7回目は、テーマに沿って話し合っていく、8回目では振り返りを行う。このように、NPプログラムでは、あらかじめテーマを決めるということはしておらず、1回目に出てきたニーズをテーマとして扱う点に特徴がある。また、NPプログラムでは、『価値観の尊重』と『体験を通して学ぶ』ということをキー・コンセプトとしており、自分で気づき、変わっていくことを大事にしていることも特徴の一つである。

(3) 模擬体験

子どもが駄々をこねた場面をテーマにしながら、NPプログラムのセッションを模擬体験した。模擬体験の中では、『具体的な状況』、『なぜ駄々をこねるのか』、『どうするのか』の順に内容を整理した（表1）。学生たちは、子どもやその場に応じて色々な対応方法があることを『問題解決アプローチ』を用いながら学んでいく中で、子どもへのかかわり方を考えることができたようであった。

¹⁾ 広島文教女子大学人間科学部心理学科助手

表1 駄々をこねるのは、どうして？

状 況	なぜ？	どうするのか？
<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを買ってくれなくて駄駄をこねる ・道路に飛び出して、親が怒ったらぐずる ・公園に行ったとき、帰りがらない 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃがほしいから ・自分の思いを通すため ・甘えたいから ・ねむい 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に約束をして出かける ・抱っこしてあげる

(4) NPプログラムにおける託児の意味

参加者は、預かってもらう際に我が子が泣き続けるのではないかと、そういう子を育ててしまった自分が責められるのではないかなど、不安を持ちながら講座にやってくる。預けることへの罪悪感をなくし、安心してプログラムに参加するために、託児は非常に重要な役割を担っている。NPプログラムでは、講座と託児が両輪で動いているため、参加者に安心してもらえる託児をしてもらうことがプログラムにおいても大切である。

【託児事前講習会】

1. 実施概要

- (1) 2012年1月20日（水） 14：10～15：15
- (2) 場 所：心理教育相談センター演習室・心理教育相談センタープレイルーム1, 2
- (3) 講 師：坂本牧子（敬称略）
- (4) 参加者（敬称略）
 - （託児スタッフ）井上正子・中田珠光・藤田弘香
 - （学生スタッフ）小下いずみ・佐々木麻美・谷岡瞳・大利幸恵・重廣奈緒子・竹本里佳子・水津舞弥・内田果歩（敬称略）
 - （運営スタッフ）新見直子・木本明日香（敬称略）
- (5) 内 容：①乳幼児のおもな発達とかかわり方について
 - ②オムツ替えの練習
 - ③託児体験で、大切にしたいこと・気をつけること
 - ④ロールプレイ体験
 - ⑤託児の流れの確認および会場の下見

2. 実施内容

(1) 乳幼児のおもな発達とかかわりかた

学生たちは、赤ちゃん人形を抱いたままで講義を受けた。講義では、子どもたちの発達の特徴を知るとともに、子どもたちの周りにある危険について学んだ。

終了後、学生からは「重たかった」「赤ちゃんを抱えたままで何かをするというのは本当に大変」などの感想があり、子育て中の母親を疑似体験できたようだった。

(2) オムツ替えの練習

オムツ替えの練習では、赤ちゃん人形を用いながら、足の持ち方やおしりの拭き方などを実践的に学んだ。初めてオムツ替えをした学生も多く、最初のうちは戸惑っていたが、次第に慣れた手つきで替えられるようになっていった。

(3) 託児体験で、大切にしたいこと・気をつけること

参加者が安心して講座に参加できるように、託児者は『安心』・『安全』・『責任』に気をつけていく必要がある。そのためには、『みんなで笑顔を大切にする』、『子どもさんを預ける親の気持ちや、預けられた子どもの気持ちに寄り添っていく』、『子どもの目線に合わせて見てみる』など“環境づくり”に配慮することが大切である。なお、環境づくりには、子どもたちを知ることや安全確認だけではなく、託児者自身の体調管理も含まれている。

(4) ロールプレイ体験「はじめての託児ってどんな気持ち？」

はじめての託児で、『子ども』・『親』・『託児者』がどのような気持ちになるのかをロールプレイを通して体験し、それぞれの気持ちを全体でシェアした（表2）。講師からは、「お母さんが帰ってくるまで、そばにいるからね」と寄り添ってあげることが大切、『痛い痛い飛んでけ』のスタンスで、痛みや辛さに寄り添ってあげることが重要であるなど、具体的なアドバイスがあった。

(5) 託児の流れの確認および会場の下見

プレイルーム1および2を確認し、危険な場所について検討した。また、インフルエンザや嘔吐下痢症の

表2 初めての託児におけるそれぞれの気持ち

子どもの気持ち	親の気持ち	託児者の気持ち
「離れたくない」、「お母さんとずっと一緒にいたい」、「誰、あなた?」、「怖い」、「連れていかれる!」、意地を張りたくなる	「どうやって大人しくさせようか」、「早く託児スタッフに渡したい」、不安、「スタッフが困っている」、「どうやったらず中に入ってくれるか」、「どうしよう」	「どう声をかけてあげればよいか」、「大丈夫だよ」、「お母さんが終わったらかえってくるからね」ニックネームで呼ぶことでも、関係づくりに役立つ。

可能性も考え、準備を行っていくこととなった。

おわりに

N Pプログラムの事前講習会では、N Pプログラムの概要説明だけではなく、プログラムの流れを体験することで具体的に参加者がどのようなことを行うのかを知ることができる内容を展開していただいた。また、託児の事前講習会では、託児において必要な知識を得た上で、赤ちゃん人形を用いて実践的に体験し、ロー

ルプレイを通して自ら考えるという形で内容を展開していただいた。託児において求められる責任感や、心構えを理解した上で、N Pプログラムに臨むことができたのには、体験しながら学ぶことのできる事前講習会を行っていただいたことも大きく関係していると思われる。これらのことから、事前講習会は、不安の軽減だけではなく、成果につなげていく上でも非常に重要であると考えられる。